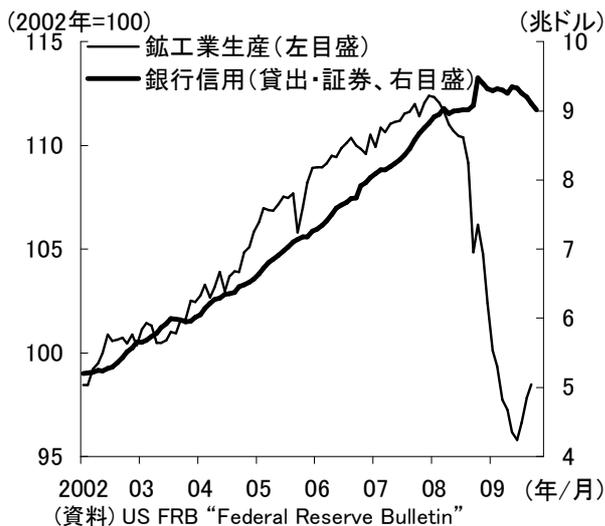


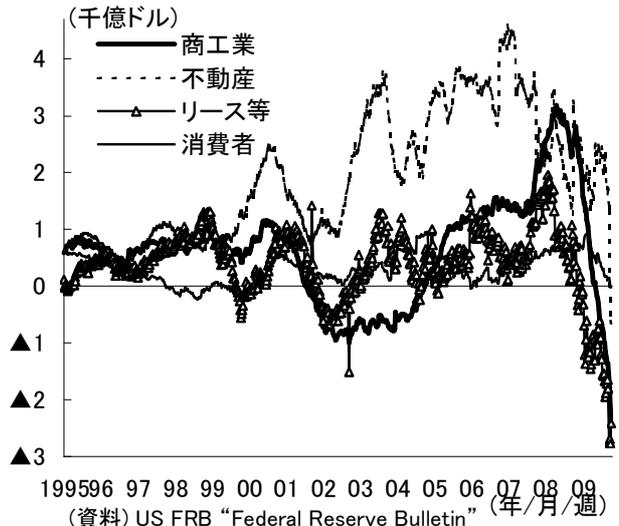
米国経済の悪化に依然歯止め掛からず ～ 生産など持ち直しの兆しは限定的動向 ～

- (1) 本年7月以降、鉱工業生産が増加に転じるなど米国経済に持ち直しの兆し（図表1）。もっとも、米国経済動向は依然として予断を許さず。
- (2) まず貸出や証券投資を合算した銀行信用残高は、本年6月以降、むしろ減少傾向へ（図表1）。分野別に前年差の推移をみると、まず昨年末からリース等その他貸出が減少（図表2）。次いで本年5月半以降、商工業向け貸出、さらに9月末から不動産向け・消費者向け貸出が減勢に転換。
- (3) 背景には景気悪化、さらに個人破産・企業倒産の増加を映じた不良債権の増加。不良債権比率は、昨年末以降、毎期既往最悪を更新（図表3）。分野別にみると、昨年入り後、急速に悪化した消費者向け貸出を筆頭に、昨年末前後から事業用・不動産・リース貸出でも大幅な悪化へ。
- (4) 金融に加え、物流も経済全体の動向を示唆。そうした観点から、直近の動向が看取される鉄道輸送量をみると、昨年末以降、前年比2割弱の減勢が持続（図表4）
- (5) 以上を総括すれば、持ち直しの兆しは生産や株価など一部に過ぎず。全体としてみれば、依然景気後退に歯止めが掛からず、実体経済の悪化と金融問題の深刻化のスパイラル持続の懸念大。

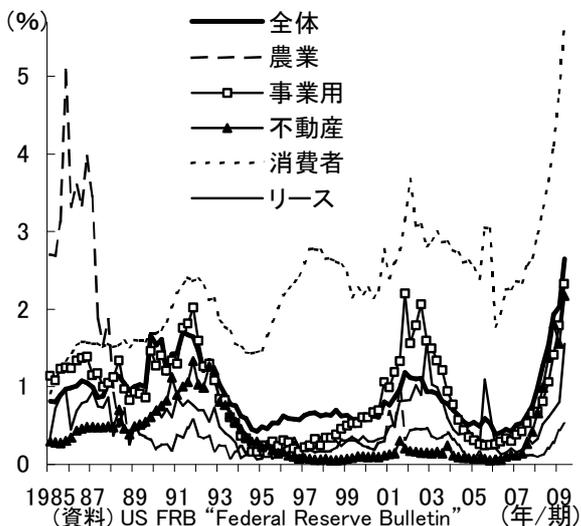
（図表1）米国鉱工業生産と銀行信用の推移



（図表2）米国商業銀行融資残高の推移(前年差)



（図表3）米国商業銀行の不良債権比率の推移



（図表4）米国鉄道輸送量の推移(前年比)

